

富士紀行 (33) ○○富士について

富士山は色々な顔を持っている。春夏秋冬の四季を通じ、また一日を通じても決して同じとすることがない。そこが富士山の良さであり、魅力である。その色々な富士山の幾つかを紹介しよう。

「○○富士」という呼び方はたくさんあるようで意外に少ないものである。型に嵌めるのが難しい位、多種多様な顔を持っているということであろう。それ故に多くの画家や写真家が富士に魅了され、そしてされ続けているのだろう。

1 影富士

富士山頂から眺める壮大な雲海に圧倒された人も多かろう。日の出、日の入りの時に太陽の反対側の雲霞の上に富士山の影を見ることが出来る。これが影富士である。拙宅のベランダからも影富士を見ることが出来る。厳密な意味での影富士ではないかも知れないが、晴れた主に冬場の夕方太陽が富士山の陰に沈んだ直後、富士山の影が天空に映し出される。

これも影富士だとは家内の言である。

2 赤富士と紅富士

赤富士、紅富士は明確な定義がないようである。積雪の有無によって、朝夕の光によって赤く染まる場合を紅富士（積雪期）と言い、赤富士（雪がない場合）と言う場合もあるようだし、富士山が朝夕の光で赤く染まるを赤富士と言い、朝焼けまたは夕焼けで富士山がシルエット気味に赤くなるを紅富士と言うこともあるようだ。更には、太陽が地上に出る直前一瞬空が赤くなり、その反映で富士山が赤く染まるを赤富士と言い、太陽が地上に顔を出し、赤い光を照らし、富士山の冠雪を薄いピンク色に染めるを紅富士という。この様に赤富士、紅富士の明確な定義はないようである。（参考：<http://www.members.tripod.com/~fugaku/akabeni.html>）

さりながら、山中湖村営「紅富士の湯」関係者から聞いた話では、冬季（12～3月）の早朝に見られる紅色に染まる富士山を紅富士という。（参考までに「紅富士の湯」の額を揮毫したのは片岡鶴太郎である。）一方、赤富士は夏季の夕方に見られる夕焼けで赤く染まった富士山と言うと聞いた。

赤富士は多くの画家が題材に選んでおり、富士学校にも「赤富士」の絵が掲げられている。

何方か、これぞ明確な定義を知っておられる方は御教示頂きたい。

3 ダイヤモンド富士

4月と8月のそれぞれ20日前後に、富士山の頂上付近から日の出が見えるときがある。これをダイヤモンドが光り輝く様に例えてダイヤモンド富士という。ダイヤモンド富士として有名なのは田貫湖であろう。理論的には朝日と富士山の延長線上ならば何処でもダイヤモンド富士が見られる道理であるが、それがそれ程簡単ではない。

4 逆さ富士

富士五湖等の湖面に映る対称形の富士山が「逆さ富士」である。5、000円札の裏の逆さ富士は岡田紅陽氏が撮影したものをベースにしている。この撮影場所は本栖湖の北西岸にある浩庵荘の前であり、「5千円札の富士山の撮影場所」との看板がある。浩庵荘内には原画となった岡田紅陽氏の写真も飾られているそうである。如かしながら、実際は、浩庵荘の後ろの山から見た富士山が5千円札の富士山であるとの研究結果が発表されている。

(参考：<http://members.tripod.com/~fugaku/5000en.html>)